

アパレル工業新聞

アジアに進出している縫製企業・関連企業で構成するNPO（非営利組織）法人「アジア・アパレルものづくりネットワーク」（AAP）が、先月十一〜二十一日に東京で開催した初の「AAP合同展示会」に延べ百六十四社・約三百人が来場した。会員の十六社が参加し、中国、アジアのモノ作りをアピールしたもので、商社や大手・中堅アパレルの生産トップクラスなどが訪れ、「中国の反日デモが激しさを増す中、タイムリーな企画という反響」（和田博事務局長）をはじめ、チャ

関心高いアジア生産

アジア・アパレルものづくりネットワーク

初の合同展に164社が来場



16社がアジアの技術力をアピール

イナ・プラスワンへの関心の高さが裏付けられた。展示会では中国、ベトナム、バングラデシュ、カンボジア、ラオス、ミャンマーで生産した製品約百点を提案。会員で企画業務も行っているオーダー・オブ・メリット・プランニング（OMP）が企画監修し、一三年春夏向けを中心にアジアのリゾートホテルをイメージしたエレガンスカジュアルで構成した。

会場では各社ごとにラックで製品や生地をまとめ、iPadを使って工場の紹介もした。また、関連企業の会員が付属を出展したほか、物流企業が作成したASEAN（東南アジア諸国連合）

の生産リードタイム一覧表なども展示した。

設立一周年記念として開いた展示会で、「アジアを中心としたモノ作りをしている工場の感度、技術、ノウハウを捉えてもらう」（宮崎守OMP代表取締役）のが狙い。予想以上の手応えがあり、認知度は大きく高まったという。今後は継続的に開催する予定だ。

AAPは現在、正会員の縫製企業が三十社、協力会員が十社、特別会員一社が参加している。